

太宰府の文化財

vol. 497

特別史跡水城跡は、今から約1360年前に防衛のために築かれた土塁です^{※1}。大野城跡がある四王寺山の南西裾からつながり、国分から吉松・大野城市下大利まで、全長1.2kmの区間に人の手で高さ約10mに土を盛って造られました。

水城の築造で使われた特徴的な工法に敷粗朶工法があります。粗朶とは枝や葉のことです。土塁の基礎工事において粗朶を用いた改良土層を形成するもので、軟弱な地盤の上で地滑りや沈下を防ぐ効果があり、現代でも通じる耐震性に優れた工法です。

発掘調査では、水城の積土^{つみど}の最下層部で敷粗朶が確認されています。発掘して出てきた葉は、土の中から現れた瞬間は生き生きとした緑色だったそうで、このことから、水城土塁のごく近場で採取した枝や葉を、さほど時間を置かずに敷粗朶に利用し



現地公開のようす（平成26年6月、JR水城駅近く）



発掘調査で出土した敷粗朶（九州歴史資料館提供画像）
平成26年の九州歴史資料館による発掘調査時のもの。調査時の映像を、JR水城駅舎入口のモニターで見ることができます。



上空から撮影した水城跡（西から）

平野が最も狭まる部分を土塁で封じること、博多湾側からさらに内陸へと容易に進入することを阻みました。

水城の築造に使われた植物 — 敷粗朶の樹木 —

たとえられていています。これまでの調査で、敷粗朶には現代の県内の低丘陵地帯と変わらない

暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の二次林^{※2}を構成する樹種が使われていたことがわかっています。

さて本市では、水城跡の環境整備事業を進めています。令和7年度からは、吉松三丁目の西門跡近くの丘陵部の樹木整理に着手しました。現地にどのような樹木が生えているか、一部を調査したところ、シイノキ、コナラ、タブノキ、ヤブニッケイなど、敷粗朶に使用されていた樹種と同じ樹木も確認できました。今後、数年をかけて対象の場所の環境整備（樹木整理）を行っていく予定です。豊かな緑の里山景観を保持しつつ、水城築造に関わる樹種も学べる場として整備につなげていきたいと思っています。

※1：飛鳥時代、唐・新羅に攻め入られた百済を助けるために朝鮮半島へ軍を派遣した日本が白村江の戦いで大敗した翌年の664年に造られました。

※2：原生林が伐採や災害などで破壊された後に自然に再生した森林。

文化財課 遠藤 茜

【お知らせ】

現在、文化ふれあい館で開催中の「まると太宰府歴史展」では、工事の立会で採取した敷粗朶の実物を展示しています。ぜひ見に来てください。会期は11月3日（火・祝）まで、入場無料。

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします！



LINE



エックス



Facebook



太宰府市公式
ホームページ



編集：太宰府市総務部経営企画課 〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121/FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

UD
FONT
by MORISAWA

気になる記事はホームページのページID検索から探すことができます。